

平成30年度 在宅療養連携会議 年間実績

1. 会議

(1) 全体会議

| | 日 程 | 出席者 | 議 題 |
|---|--------------|--|---|
| 1 | 5月29日 (火) | 19名 (内、行政3) オブザーバー 8名 傍聴2名 | 1. 会議の公開について 2. 平成30年度在宅療養連携会議の方針について 3. 平成30年度の専門部会の編成及び事業計画について 4. 平成29年度事業報告 |
| 2 | 7月31日 (火) | 16名 (内、行政3) オブザーバー 4名 傍聴2名 | 1. 各専門部会からの報告 ① 広報啓発検討専門部会 ・ みんなで支える在宅療養シンポジウム企画について ② 連携手法検討専門部会 ・ 多職種合同研修会実施報告 ・ ケアマネジャー対象の連携状況に関するアンケートの集計結果について ③ 研修・セミナー検討専門部会 ・ ケアマネジャーのための在宅療養セミナー企画について 2. 平成30年度在宅医療・介護連携推進事業進捗状況報告 |
| 3 | 11月9日 (金) | 19名 (内、行政3) オブザーバー 4名 傍聴2名 | 1. 各専門部会からの報告 ① 広報啓発検討専門部会 ・ みんなで支える在宅療養シンポジウム企画について ② 連携手法検討専門部会 ・ 多職種連携セミナー（介護保険）の概要について ③ 研修・セミナー検討専門部会 ・ ケアマネジャーのための在宅療養セミナートピック講座実施報告 2. 平成30年度在宅医療・介護連携推進事業進捗状況報告 3. 平成31年度事業予定について 報告1 救急需要対策に関する横須賀市消防局の取り |

| | | | 組みについて（横須賀市消防局救急課） |
|---|--------------|--|---|
| 4 | 2月25日 (月) | 16名 (内、行政3) オブザーバー 5名 傍聴3名 | <p>1. 各専門部会からの報告</p> <p>① 広報啓発検討専門部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなで支える在宅療養シンポジウムアンケート集計結果について ・ 平成31年度のシンポジウム及び在宅医療介護の見本市」について <p>② 連携手法検討専門部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多職種連携セミナー(介護保険) アンケート集計結果について ・ 退院前カンファレンス実施状況調査について ・ 平成31年度多職種合同研修会企画について <p>③ 研修・セミナー検討専門部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ケアマネジャーのための在宅療養セミナートピック講座実施報告 <p>2. 平成31年度のシンポジウム及び「在宅医療・介護の見本市」について</p> <p>3. 平成30年度在宅医療・介護連携推進事業進捗状況報告</p> <p>4. 平成31年度在宅医療・介護連携推進事業予定について</p> <p>報告1 「よこすか栄養まつり」について（横須賀地区栄養士連絡協議会）</p> |

(2) 専門部会

①Aチーム：広報啓発検討専門部会 3回開催

メンバー6名（内、行政職1名）

検討項目 ・在宅療養シンポジウム企画
・リビング・ウィルの検討

| | 日程 | 議題 |
|-----|-----------|--|
| 第1回 | 7月9日（月） | 1. 在宅療養シンポジウムについて |
| 第2回 | 10月15日（月） | 1. 在宅療養シンポジウムについて |
| 第3回 | 2月7日（木） | 1. 在宅療養シンポジウムについて 2. 在宅療養シンポジウム、在宅医療・介護の見本市について |

②Bチーム：連携手法検討ワーキングチーム 4回開催

メンバー8名（内、行政職1名）

検討項目 ・多職種合同研修会の企画
・多職種連携による相談体制構築の検討

| | 日程 | 議題 |
|-----|----------|--|
| 第1回 | 4月23日（月） | 1. 多職種合同研修会について |
| 第2回 | 7月3日（火） | 1. 多職種の連携状況に関するアンケートについて |
| 第3回 | 10月2日（火） | 1. 多職種連携セミナー（介護保険）について |
| 第4回 | 1月18日（金） | 1. 多職種連携セミナー（介護保険）アンケート集計結果について 2. 退院前カンファレンス実施状況の評価方法について 3. 平成31年度多職種合同研修会について |

③Cチーム：研修・セミナー検討ワーキングチーム 0回開催

メンバー5名（内、行政職1名）

検討項目 ・介護職対象の医療に関する研修の検討
・医療職対象の在宅医療セミナーの検討

2. 各種事業

(1) 在宅療養を支えるみなさんのための多職種合同研修会

日 程：7月6日（木）19：00～21：00

会 場：生涯学習センター大学習室

テーマ：困った事例を多職種で解決！～入院した患者さんの在宅復帰をどう支える？～

参加者：179人

(2) 在宅療養シンポジウム

日 程：1月27日（日）13：00～16：00

会 場：ヨコスカ・ベイサイド・ポケット

テーマ：「穏やかな旅立ちのために」

講 師：特別養護老人ホーム芦花ホーム 石飛幸三医師

パネリスト：野村内科クリニック 野村良彦医師

興寿苑訪問看護ステーション 後藤美恵子看護師

日本医療伝導会衣笠病院グループ 大野高志チャプレン

横須賀市地域医療推進課 川名理恵子

参加者数：300名

(3) 医師のための在宅医療セミナー

日 程：3月20日（水） 19：30～21：30

会 場：生涯学習センター 第1学習室

テーマ：かかりつけ医の認知症対応力

講 師：神奈川県警察 運転免許本部運転教育課 適正審査係 田中克己氏

久里浜医療センター 永田英哉医師

参加者：49人

(4) 同行研修

実施回数：8回（9名）

(5) 介護職のための在宅療養セミナー 資料7-2参照

(6) 病院医療職対象在宅療養出前セミナー

①よこすか浦賀病院 参加者 38人

日 程：7月24日（火）17:30～18:30 講師：野村良彦医師

②パシフィックホスピタル 参加者 44人

日 程：10月3日（水） 17:30～18:30 講師：野村良彦医師

③湘南病院 参加者 61人

日 程：11月22日（木） 17:15～18:15 講師：金成正浩医師

④市立うわまち病院 参加者 137人

日 程：2月27日（水） 17:45～20:15 講師：佐藤真紀子医師

⑤横須賀共済病院 参加者 23人

日 程：3月25日（月） 18:30～19:30 講師：朴正晃医師

共通事項

テーマ：病院から在宅へーそれはキュアからケアへのパラダイムシフトー

内 容：横須賀市の現状と医療需要の変化（横須賀市）

在宅医療の現実（在宅医*医師会推薦講師）

主 催：横須賀市、横須賀市医師会、会場病院

（7）多職種連携セミナー（かかりつけ医セミナー）

日 程：①11月15日（木）19：00～21：00

②2月15日（金）19：00～21：00

③3月13日（水）19：00～21：00

目 的：かかりつけ医をはじめとした関係職種が、在宅医療についての知識を取得するとともに、医療・介護の多職種連携を推進する。

テーマ：①医療職のための介護保険の基礎

～今さら聞けない介護保険制度～

②認知症をどう捉える？認知症へのポジティブアプローチ

～認知症ではなく、「人」にフォーカスをあてたアセスメント

認知症の生活障害を評価する～

③あまっている薬をどうする？その疑問を薬剤師にぶつけよう！

～残薬問題とネイビーバッガープロジェクトについて～

講 師：①横須賀市福祉部介護保険課 給付係 鈴木亨係長

横須賀市居宅介護支援事業所連絡協議会 副会長 小林二三代氏

②汐入メンタルクリニック 阿瀬川孝治医師

神奈川県立保健福祉大学 小河原格也氏

③D.S. テラブン薬局 中村康之氏

主 催：横須賀市、横須賀市医師会

参加者：①147人 ②104人 ③75人

その他：②は福祉部高齢福祉課と協力して実施

③は横須賀市薬剤師会と共催

（8）在宅療養センター連携拠点・ブロック連携拠点事業 資料7-3、7-4参照

（9）出前トーク

実施回数：19回

参加者：468人

平成30年度介護職のための在宅療養セミナー開催実績

●ケアマネジャー対象セミナーにおける平成30年度の傾向

- ・ トピック講座は「ケアマネジャーが対応に迷う時」をテーマに3回の講座を展開した。
- ・ 基礎講座は、初任ケアマネジャーが知っておきたい基礎的な医療知識について、関係職種へ講義を依頼した。
- ・ 二次医療圏内のケアマネジャーにも参加を呼び掛けた。

| ケアマネジャー対象（市主催） | | | |
|----------------|--------------|---------------|---|
| 回 | 日程 | 参加者数 | テーマ及び講師 |
| ケアマネ トピック① | 7/24 (火) | 78人 (63) | 『緩和ケア ～がん患者が体験している心と体の変化、真のニーズとは～』 横須賀共済病院 がん看護専門看護師 坂本 理恵 氏 |
| ケアマネ トピック② | 10/24 (水) | 78人 (68) | 『神経難病系疾患 ～在宅療養においてケアマネジャーが気を付ける点～』 横須賀共済病院 神経内科部長 医師 入岡 隆 氏 |
| ケアマネ トピック③ | 1/24 (木) | 24人 (17) | 『心肺蘇生法講習会』 横須賀市消防局救急課 救急指導係 主任 小林 隆洋 氏 |
| ケアマネ 基礎 | 6/14 (木) | 90人 (77) | 『在宅医療』 横須賀市医師会（金成医院） 医師 金成 正浩 氏 『在宅での服薬』 横須賀市薬剤師会（ヒロ薬局） 薬剤師 塚本 久美 氏 『訪問看護』 横三地区訪問看護ステーション連絡協議会 横須賀ブロック（訪問看護ステーション友・友） 訪問看護師 富澤 恵子 氏 |
| 合計 | | 270人 (225) | |

*参加者数の（ ）内は横須賀市内事業所のケアマネジャー

| ヘルパー対象（横須賀市健康福祉財団主催） | | | |
|----------------------|-------------|------|---|
| 回 | 日程 | 参加者数 | テーマ及び講師 |
| 第1回 | 5/30 (水) | 80人 | 『食中毒と脱水予防のための基礎知識』 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部栄養学科助教 飯田 綾香 氏 |
| 第2回 | 9/5 (水) | 67人 | 『いざという時のための応急手当（心肺蘇生法とAEDの使用方法）』 横須賀市消防局救急課 救急指導係 主任 小林 隆洋 氏 |
| 第3回 | 1/15 (火) | 73人 | 『血液透析患者さんを介護する上での基礎知識』 横須賀共済病院 腎臓内科部長 田中 啓之 氏 |
| 合計 | | 220人 | |

平成30年度事業報告書

平成31年3月31日

一般社団法人横須賀市医師会

会 長 遠 藤 千 洋

1 はじめに

当医師会は、従来から在宅医療推進のための様々な取り組みを行ってきたが、平成24年度に国の「在宅医療推進連携拠点事業」の実施をきっかけに平成25・26年度は、国の「地域医療再生基金」を活用し策定された「神奈川県地域医療再生計画」に基づき各市町村において在宅医療連携拠点づくり事業が実施されてきたところである。

また、平成27年度からは介護保険法の地域支援事業の包括支援事業における在宅医療・介護連携推進事業として位置付けられ、実施主体を市区町村として全国的に取り組むこととなり、平成30年4月から完全実施されたところである。

横須賀市は、平成23年度以降実施してきた在宅療養連携体制を構築・推進するための各種事業を、平成27年度からは介護保険法の規定に基づく地域支援事業（在宅医療・介護連携関係）として実施することになり、平成27年度以降引き続き、その一部を在宅療養センター連携拠点運営業務として委託を受け事業を実施したものである。

なお、平成30年度における事業実績は、以下のとおりである。

2 スタッフ

事業担当医師（在宅医療担当理事・在宅医療委員会委員）

アドバイザー（専任：介護支援専門員の資格を有する保健師） 1名（非常勤）

事務職員（専任） 3名

（事務局常勤2名、非常勤1名）

3 委託業務名 在宅療養センター連携拠点運営業務

4 履行期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

5 事業内容及び実績

(1)「センター連携拠点」運営

「在宅療養センター連携拠点」は、横須賀市全域を対象とした在宅療養連携体制を構築・推進するため、平成25年度以降引き続き横須賀市から受託したものである。

加えて、平成26年3月に横須賀市主導の下、市内4か所に設置された「地区ブロック連携拠点」の連絡調整役も担い以下の項目の事業を実施した。

① 広域多職種合同研修会

- ・市内の医療関係者、介護関係者等が一堂に会し、在宅療養に関する現状等の把握、課題・対策の検討を通じて、顔の見える関係の構築に努めた。

開催日時 平成 30 年 6 月 21 日（木）19:00～21:00

会 場 横須賀市生涯学習センター大学習室

テ ー マ その人に合った療養の場を多職種で考える！
～患者・家族の意思決定をどう支える？～

参 加 者 170 名（診療所医師 11 名）他にスタッフ 15 名が参加

② 街角在宅医療講座

- ・市内各地域の自治会、市民関係団体等が開催する講座に医師会会員を講師として派遣し、地域医療（在宅医療を含む）関連の講義を行い普及啓発に努めた。

* 街角在宅医療講座の開催（5 回開催 参加者 238 名）

第 1 回 平成 30 年 8 月 8 日（水） 生協衣笠診療所 参加者 32 名

テーマ：最近の在宅医療について

（かもめ広場の活動・よこすかリンクパスポートを含めて）

講師 小磯診療所 院長 磯 崎 哲 男 氏

第 2 回 平成 30 年 9 月 15 日（土） ハイランド 3 丁目こんにちわの会 参加者 50 名

テーマ：わが家で最期を ～満足と納得の死を迎えるために～

講師 三輪医院 院長 千 場 純 氏

第 3 回 平成 30 年 11 月 16 日（金）横須賀市シルバー人材センター 参加者 70 名

テーマ：わが家で最期を ～満足と納得の死を迎えるために～

講師 三輪医院 院長 千 場 純 氏

第 4 回 平成 31 年 2 月 19 日（火） 湘南国際村いきいきサロン 参加者 41 名

テーマ：「在宅医療」について知りたい！

講師 野村内科クリニック 院長 野 村 良 彦 氏

第 5 回 平成 31 年 2 月 21 日（木） 助け合いハイランド 4 丁目 参加者 45 名

テーマ：わが家で最期を ～満足と納得の死を迎えるために～

講師 三輪医院 院長 千 場 純 氏

③ 病院長会議

横須賀市内の病院長による在宅医療を含む地域医療連携に関する会議を開催し、病診連携を推進した。

- ・平成 30 年 10 月 3 日（水）19:30～21:30 参加者 18 名

議 題 等

1 横須賀市医師会から

(1) 在宅療養生活を支援する「後方支援ベッド確保」に関する事業について

(2) よこすかリンクパスポート改訂版の発行と活用について

- (3) 各種事業講演会等への積極的な参加について
- (4) 急性期病院との病病・病診連携について
- (5) 訪問看護ステーションに発行する「訪問看護指示書」について

2 情報交換

3 横須賀市から

- (1) 在宅医同行研修及び病院在宅療養出前セミナーについて
- (2) かかりつけ医セミナーの開催について
- (3) 在宅療養シンポジウムについて
- (4) 医師のための在宅医療セミナーについて
- (5) 在宅医療・救急医療連携における検討会について

4 その他

④ 在宅患者情報共有システムの管理運営、普及および運用

在宅療養の現場において、多職種連携を円滑に進めるため既存のシステムを活用した「在宅医療・介護情報共有システム（かもめネット）」を平成 27 年度に構築し、その運用に努めるとともに、システム活用の拡大を図るための勉強会を開催するなど普及啓発に努めた。また、在宅医療・介護支援のための情報整備を推進した。

・かもめネットの登録状況（平成 31 年 3 月 31 日現在）

登録者数合計 228 名、
登録事業所合計 156 か所

・かもめネット勉強会の開催 3 回

平成 30 年 11 月 26 日（月）19:00～ 三輪医院
平成 31 年 1 月 26 日（月）18:30～ フロムワン附属診療所
平成 31 年 3 月 13 日（水）14:00～ 小磯診療所

・在宅医療・介護支援の情報整備の推進

在宅医療の更なる多職種連携の強化を目指すため、医師会ホームページ「在宅医療」のページに多職種連携の連絡先として掲載した次の機関と連携を深めた。

・訪問歯科診療、訪問服薬指導、訪問看護ステーション、訪問リハビリテーション、訪問栄養指導、横須賀市在宅療養連携推進、地域包括支援センター

・在宅患者入院支援登録システムの管理・運用

在宅患者が急な病状悪化や検査等で病院への入院が必要になった場合の入院支援を円滑に進めるため「在宅患者入院支援登録システム」の運用を平成 26 年 9 月 18 日から開始している。これは、入院の必要が生じた場合を想定し、在宅者の情報を予め病院へ提供しておく仕組みで「在宅医療・介護情報共有システム」と合わせて運用したものである。

なお、本システムにおける登録患者数は、平成 31 年 3 月 31 日現在 714 名で、このうち 71 名が入院した。在宅医からは「このシステムを利用することにより、スムーズな入院ができた」等、評価する声が聞かれた。

⑤ ブロック連携拠点との連絡調整

・在宅療養ブロック連携拠点情報交換会

市内全域を対象とした在宅療養連携体制の推進と4ブロックとの連携強化を図るためセンター連携拠点主催による情報交換会を開催した。

第1回：平成30年11月28日（水）19:30～21:00 医師会館 理事会室

参加者 26名（医師 11名）

議題等：1. 各ブロックの活動状況について

（北・東・中央・西南、各ブロック）

①各ブロック拠点の活動状況

②事前アンケートの結果について

2. センター連携拠点活動状況等について（かもめ広場）

①かもめネットの活用状況について

②よこすかリンクパスポート(改定版)の発行と活用について

③在宅療養生活を支援する「後方支援ベッド確保」に関する事業について

④「かもめ広場だより」への各ブロック連携拠点の紹介記事の掲載について

3. 意見交換

4. 横須賀市から

・在宅医療・介護連携推進事業 進捗状況

・在宅療養シンポジウムの開催について

・横須賀市における在宅医療・介護連携推進事業の取り組みの経過について

5. その他

・各在宅療養「ブロック会議」との連携

平成26年3月設置された市内4ブロックの「ブロック会議」との連携に努めた。

◆ブロック連携拠点

・北ブロック連携拠点 ⇒ 聖ヨゼフ病院

（追浜・田浦・逸見・本庁地域 → 追浜班・汐入班・下町第1班、湘南病院、自衛隊横須賀病院、神奈川歯科大学附属病院、聖ヨゼフ病院）

・中央ブロック連携拠点 ⇒ 衣笠病院

（本庁・衣笠地域 → 下町第2班・豊島班・衣笠班、横須賀共済病院、横須賀市立うわまち病院、衣笠病院）

・東ブロック連携拠点 ⇒ よこすか浦賀病院

（大津・浦賀・久里浜地域 → 大津班・浦賀班・久里浜班、よこすか浦賀病院）

・西南ブロック連携拠点 ⇒ 横須賀市立市民病院

（北下浦・西地域 → 下浦班・武山班、久里浜医療センター、パシフィック

⑥ よこすかリンクパスポートの増刷

在宅療養者と家族の意向を尊重しながら、関係多職種が連携して在宅医療・介護を円滑かつ効果的に提供するためのツールとして、平成 29 年度において関係多職種で構成する検討委員会を設置し「使いやすく役立つものを」をモットーに鋭意検討協議を重ね、在宅医療・介護連携ノート「よこすかリンクパスポート」改訂版を作成し発行した。

平成 30 年度においては活用の拡大を図るため増刷した。

・改訂版増刷のポイント

- ① A4 版、黄色のファイル
- ② 緊急連絡先を確認する欄を裏表紙に配置
- ③ よこすかリンクパスポートの所有を知らせるために冷蔵庫等に貼るステッカー(マグネット式)を同時に発行
- ⑤ 発行部数 1,000 部

⑦ 在宅医療市民公開講座

超高齢社会にあって在宅医療のニーズは益々増大している。そこで在宅医療の実際と今後について、広く市民に啓発するため市民公開講座を開催し在宅医療に関する意識の醸成に努めた。

- ・日 時 平成 31 年 2 月 23 日(土) 13:00～16:00
- ・会 場 横須賀市医師会館 大会議室
- ・テーマ及び講師

講演 「在宅医療における認知症の医療と介護」

～知っておきたい落とし穴～

講師 医療法人社団裕和会 長尾クリニック

院 長 長 尾 和 宏 氏

鼎談 「それでも安心在宅医療」

～体が不自由になっても認知症になっても

わたしは私～

- ・医療法人社団裕和会 長尾クリニック

院 長 長 尾 和 宏 氏

- ・横須賀市医師会副会長 千 場 純

- ・認知症当事者 近 藤 英 男 氏

- ・当事者サポーター 稲 田 秀 樹 氏

(かまくら認知症ネットワーク代表理事)

- ・参 加 者 163 名 (他に講師・スタッフ等 18 名)

(2) 横須賀市と共催事業

I 在宅医を増やすために

診療所や病院の医師を対象に在宅医療の実態と今後の展望についての認識を高めて一人でも多くの医師に在宅医療に取り組んでもらうため開催した。

① 医師のための在宅医療セミナー（地域医療セミナー）

趣旨：団塊の世代が後期高齢者になる 2025 年を見据え、在宅医を増やすことは喫緊の課題である。そのためには、在宅医療に関する今後の見通しや社会的役割、在宅医療の手法とその実態などについて、まず、医師に“知ってもらう”ことが重要である。このため、開業医に在宅医療への参入を促すため当該セミナーを開催した。このセミナーは、かかりつけ医として今後ますます増加が予測される認知症患者への対応力向上につながる機会となった。

・平成 31 年 3 月 20 日（水）19：30～21：15 参加者 49 名（医師 16 名）

講演 1 「高齢運転者の交通事故防止対策について」

講師 神奈川県警察本部 田 中 克 己 氏

講演 2 「認知症患者の対応のポイントについて」

講師 久里浜医療センター医師 永 田 英 哉 氏

② 多職種連携セミナー

趣 旨：高齢社会が進む中、在宅療養の需要は、今後ますます増加が見込まれる。

在宅療養の推進には医療・介護関係多職種の連携が重要である。このため、第 1 回目は、講義形式のセミナーとし「介護保険制度」について医療職間で共通の認識を得ることに努めた。

また、第 2 回目は、今後増加が予測される認知症患者に対し、かかりつけ医を初めとした多職種で連携して、認知症に対応できることを目指すために今回は「人」にフォーカスをあて、認知症への理解や多職種連携を一層深める機会となった。

第 3 回目は、飲み残された処方薬が全国的に問題となっており、この「残薬問題」の課題解決に向けては、薬剤師だけでなく関係多職種の相互理解が必要不可欠であり、本セミナーは多職種連携強化のための良い場となった。

第 1 回目：平成 30 年 11 月 15 日（木）19：00～21：00 参加者 147 名

テーマ：医療職のための介護保険の基礎

～いまさら聞けない介護保険～

講 師：横須賀市福祉部介護保険課

給付係長 鈴 木 亨 氏

横須賀市居宅介護支援事業所連絡協議会

副 会 長 小 林 二三代 氏

第2回目：平成31年2月15日(金) 19:00～21:00 参加者104名

テーマ：認知症をどう捉える？

認知症へのポジティブアプローチ!!

～「人」にフォーカスをあてたアセスメント

認知症の「人」の生活障害を評価する～

内 容：フィッシュボウル①

講義 認知症へのポジティブな評価とは

講師 神奈川県立保健福祉大学

リハビリテーション学科 小河原 格也 氏

フィッシュボウル②

講評・ミニレクチャー

講 師：汐入メンタルクリニック

院長 阿瀬川 孝 治 氏

第3回目：平成31年3月13日(水) 19:00～21:00 参加者75名

テーマ：あまっている薬をどうする？

その疑問を薬剤師にぶつけよう！

・残薬における課題～ネイビーバグガープロジェクト～

講 師：横須賀市薬剤師会 中 村 康 之 氏

③ 病院在宅療養出前セミナー

趣旨：病院の勤務医や看護師等に対し在宅医療についての理解を深めることにより、病診連携の推進を図るため実施した。

・平成30年7月24日(火)実施 よこすか浦賀民病院 (参加者38名)

・平成30年10月3日(水)実施 パシフィックホスピタル (参加者44名)

講師 野村内科クリニック

院長 野 村 良 彦 氏

・平成30年11月22日(木)実施 湘 南 病 院 (参加者61名)

講師 金成医院 金 成 正 浩 氏

・平成31年2月27日(水)実施 横須賀市立うわまち病院 (参加者137名)

講師 フロムワン付属診療所

院長 佐 藤 眞 紀 子 氏

・平成31年3月25日(月)実施 横須賀共済病院 (参加者23名)

講師 汐入ぱくクリニック

院長 朴 正 晃 氏

④ 在宅医師同行研修

趣旨：病院勤務医や病院看護師に在宅医療の現場について認識を深めてもらうことにより病診連携の推進を図るため実施した。

また、本年度は、歯科医師、歯科衛生士の参加もあり、在宅歯科医療との連

携強化にもつながったものとする。

- ・指導医 三輪医院 院長 千 場 純 氏
平成 30 年 3 月 18 日(月)実施 パシフィックホスピタル
西 尾 進 也 (医 師)
平成 30 年 10 月 16 日(火)実施 横須賀市立うわまち病院
毛 利 健 (医 師)
平成 31 年 2 月 7 日(木)実施 千恵歯科医院
黒 木 輝 樹 (歯科医師)
小 林 美和子 (歯科衛生士)
- ・指導医 秋谷潮かぜ診療所 院長 西 村 京 子 氏
平成 30 年 8 月 28 日(木)実施 横須賀市立うわまち病院
平成 30 年 9 月 14 日(金)実施 藤 代 潤→2 回 (医 師)
平成 30 年 10 月 17 日(水)実施 ライフゆう
北 杉 仁 (医 師)
- ・指導医 小磯診療所 院長 磯 崎 哲 男 氏
平成 30 年 9 月 3 日(月)実施 横須賀市立うわまち病院
清 雲 聡 子 (看護師)
平成 30 年 9 月 3 日(月)実施 横須賀市立うわまち病院
飯 澤 奈津子 (看護師)

Ⅱ 「在宅医療に関する地域住民への啓発」支援

横須賀市が在宅医療を広く地域住民に浸透させるため開催した「シンポジウム」に対し在宅医療の普及啓発活動を当医師会として支援した。

* 「みんなで支える在宅療養シンポジウム」開催への支援

平成 30 年 1 月 28 日(日)実施 参加者 266 名

テーマ：穏やかな旅立ちのために

基調講演 「終の棲家で平穏死」

講 師 東京都世田谷区立特別養護老人ホーム

芦花ホーム 医 師 石 飛 幸 三 氏

パネルディスカッション

「平穏に旅立つための支援と準備」

パネリスト 野 村 良 彦 氏

医 師

(野村内科クリニック院長)

〃 後 藤 恵美子 氏

看護師

(興寿苑

訪問看護ステーション管理者・看護部長)

〃 大 野 高 志 氏
チャプレン
(社会福祉法人日本医療伝道会)

〃 川 名 理恵子 氏
横須賀市健康部地域医療推進課 課長

コメンテーター 石 飛 幸 三 氏
進 行 千 場 純 氏
(横須賀市医師会副会長・三輪医院院長)

* このシンポジウムに横須賀市内の在宅医療実施診療所の一覧表を配布するとともに在宅医療を実施している医師が登壇し診療所情報等を紹介した。

登壇医師：汐入ぱくクリニック 朴 正 晃 氏
横須賀中央診療所 春 田 明 郎 氏
衣笠病院附属在宅クリニック 兒 玉 達 樹 氏
秋谷潮かぜ診療所 西 村 京 子 氏

Ⅲ 在宅医療・救急医療連携推進事業（略称：在宅救急連携事業）

在宅で最期まで療養することを希望している患者の意思に沿わない救急搬送や検案数を減らし、在宅看取りにつなげるとともに、病院へ搬送された場合でも病院での看取りが円滑に行われるよう、死亡診断書を記入しやすくするため、在宅医と病院の救急医療担当医師がスムーズな連携を目指すため検討会等を開催した。

- ・検討会の開催
- ・在宅医緊急連絡先活用の試行

(3) そ の 他

在宅医療をより一層推進・強化を図るため、以下の事業に取り組んだ。

① 神奈川県地域在宅医療推進事業

（地域医療介護総合確保基金を財源とした在宅医療の推進に資する事業）

地域医療介護総合確保促進法に基づく平成 27 年度 神奈川県計画（医療関係事業）において「郡市医師会が実施主体となり実施する事業」の実施における平成 30 年度補助事業としての承認を得て、次の事業を実施した。

- i 在宅医療ネットワークミーティング
 - ・終末期における支援：エンドオブライフケア援助者のための勉強会
- ii 診療所主導型在宅医療学習会
- iii 在宅医療啓発用冊子の作成・配布
- iv 在宅療養体制整備（後方ベット確保）に関するモデル事業

② 在宅医療委員会の開催

在宅医療に関する課題等を協議・検討するため、在宅医療委員会を4回開催した。

| | | |
|--------|----------|------------|
| 平成30年度 | 1回目（第5回） | 平成30年4月17日 |
| | 2回目（第6回） | 平成30年6月26日 |
| | 3回目（第7回） | 平成30年9月21日 |
| | 4回目（第8回） | 平成31年1月15日 |

6 ま と め

超高齢社会を迎えた昨今、在宅医療のニーズの高まりと期待は益々増加の一途を辿っている。「できる限り住み慣れた地域で、最期まで尊厳をもって自分らしく老いていきたい。」これは、多くの人々に共通する願いである。多くの人々のこのような願いをかなえるために、国においては、医療・介護・住まい・生活支援・介護予防が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の実現を目指し様々な施策が講じられてきた。

「平成30年度診療報酬改定の基本方針」の改定に当たっての基本認識によれば、

＊人生100年時代を見据えた社会の実現

＊どこに住んでいても適正な医療・介護を安心して受けられる社会の実現
(地域包括ケアシステムの構築)

＊制度の安定性・持続可能性の確保と医療・介護現場の新たな働き方の推進
の3項目が示されたところである。

この中の「人生100年時代を見据えた社会の実現」で、『今後、2025年には、いわゆる「団塊の世代」が全て75歳以上の高齢者となり、2040年には、いわゆる団塊ジュニア世代が65歳以上の高齢者となる等人口の高齢化が急速に進展する中で、活力ある社会を実現することが必要である。(中略)あらゆる世代の国民一人一人が状態に応じた安心・安全で質が高く効果的・効率的な医療を受けられるようにすることが必要である。』とされている。

また、「どこに住んでいても適正な医療・介護を安心して受けられる社会の実現(地域包括ケアシステムの構築)」の中で、「地域の実情に応じて、可能な限り住み慣れた地域でその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、地域包括ケアシステムを構築し、今後の医療ニーズや技術革新を踏まえた、国民一人一人が状態に応じた安心・安全で質が高く効果的・効率的な医療を受けられるようにすることが必要である。」とも示されている。

昨今、高齢社会の進展に伴い疾病構造が変化していく中で「治す医療」から「治し、支える医療」への転換が求められており、医療や介護が必要な状態になっても、できる限り住み慣れた地域で安心して生活を継続し、尊厳をもって人生の最終章を迎えることが重要である。

このためには、地域包括ケアシステムの構築、効果的・効率的で質の高い医療提供体制の整備、特に、質の高い人材を継続的に確保していくことは不可欠であり喫緊の課題であると認識している。

新聞報道によると、平成31年3月1日厚生労働省が公表した「平成29年度患者調査」の結果によれば平成29年度に在宅医療を受けた患者数が1日あたり18万1000人に上り、データがある昭和44年以降で最多を更新したことが公表された。前回の調査(平成26年)と比べ23,700人増えた。このうち、医師が定期的に出向く訪問診療を受けた患者が116,000人必要に応じて往診を受けた患者は、44,300人であった。在宅医療を受ける患者は平成20年以降、急速に伸びている。

ちなみに、横須賀市内の在宅療養支援診療所における診療患者数は平成 29 年には訪問患者数は、延 63,312 人で年々増加の一途を辿っている。これらの傾向は、国が入院から在宅医療への移行を促していることが背景にあるとみられる。今後、この傾向は続くものと考えられる。

当医師会は、平成 10 年度から先駆的に在宅医療を含む地域医療の推進、多職種連携の推進について独自の取組みを行ってきた。加えて平成 24 年度に国の在宅医療連携拠点事業者に採択され、在宅医療推進連携拠点「かもめ広場」を設置し、多職種協働による在宅医療の支援体制の構築、医療と介護が連携した地域における包括的かつ継続的な在宅療養の提供を目指し様々な取組みを実践したところである。

平成 25・26 年度は、厚生労働省の地域医療再生基金を活用し策定された「神奈川県地域医療再生計画」に基づき、各市町村において在宅医療連携拠点づくり事業が実施され、横須賀市も在宅での療養を望む市民やその家族が安心して生活を送ることができるよう「横須賀市在宅療養連携推進事業」が実施され、当医師会が業務委託を受け事業を実施してきたところである。

また、平成 27 年度からは介護保険法の規定に基づく地域支援事業（在宅医療・介護連携関係）として実施することになり、本年度も前年度に引き続き、その一部を在宅療養センター連携拠点運営業務として、当医師会が受託したものである。

特に、在宅医の増加を図り、関係多職種の連携強化による在宅療養推進システムの構築を促進するため、平成 26 年 3 月末に行政主導により従来の市全体の取組みから市内を 4 ブロックに分割し、それぞれにブロック連携拠点が設立され、その基盤整備が整ったことは大きな一歩となり、設立から 5 年が経過し様々な実践活動によって、地域内での病院や診療所等の連携強化による在宅療養推進に寄与しているものと考えられる。

当医師会は、在宅療養推進連携拠点として「かもめ広場」を設置し「在宅療養センター連携拠点」として市域全体の在宅療養連携体制を推進する役割を担うとともに、併せて市内 4 か所に設置された各ブロック連携拠点との連絡調整等の役割も果たしたところである。

在宅療養推進連携拠点「かもめ広場」（在宅療養センター連携拠点）の取組みは、

横須賀市からの委託事業

- (1) 広域的多職種合同研修会
- (2) 街角在宅医療講座
- (3) 病院長会議
- (4) 在宅患者情報共有システムの管理運営、普及および運用
- (5) ブロック連携拠点との連絡調整
- (6) よこすかりンクパスポートの増刷
- (7) 市民公開講座

市との共催事業として、

＊在宅医を増やすために

- ① 医師のための在宅医療セミナー（地域医療セミナー）
- ② 多職種連携のためのセミナー
- ③ 病院在宅医療出前セミナー
- ④ 在宅医同行研修

をそれぞれ実施した。

このほか、在宅医療に関する地域住民への啓発を図るため、「みんなで支える在宅療養シンポジウム」の開催を支援し知識の普及啓発に努めた。

また、このシンポジウムにおいて在宅医が登壇し在宅医療の実際を紹介するなど在宅医療に関する認知度を高めることに尽力するとともに、当日の参加者に配布した在宅医療に取り組む医療機関の一覧表作成のための資料等を提供した。

このほか、在宅医療・救急医療連携推進事業（略称：在宅救急連携事業）として在宅医と病院の救急医療担当医師がスムーズな連携を目指すため検討会等を開催し、在宅医緊急連絡先活用の試行を行った。

当医師会独自の取組みとして神奈川県地域在宅医療推進事業（地域医療介護総合確保基金を財源とした在宅医療の推進に資する事業）の補助対象事業として

- ① 在宅医療ネットワークミーティング
 - ・終末期における支援：エンドオブライフケア援助者のための勉強会
- ② 診療所主導型在宅医療学習会
- ③ 在宅医療啓発用冊子の作成・配布
- ④ 在宅療養体制整備（後方ベット確保）に関するモデル事業

を実施したほか、ホームページの在宅医療に関する検索システムの情報更新・管理等、その他、広報活動としてかもめ広場だよりの発行、在宅医療に関する様々な取組に関する情報等を医師会報に掲載し情報発信の機会とした。

また、当医師会の取組みに対し、東京大学に留学中のタイ国学生を初め他都市医師会や関係機関等から視察の受け入れや資料提供の要請があり、視察者との情報交換や関係資料の提供による情報や課題の共有に努めた。

7 おわりに

当医師会は、平成 30 年度の一年間を通じて様々な取組みを行ってきたが、これらは、地域社会の在宅医療への理解、地域医療における病診連携・多職種連携、或いは日常の療養支援、緊急時の対応、在宅での看取り等様々な局面で求められるニーズに対する推進の一助に資するもので、「在宅医の増加を図り、関係多職種の連携強化による在宅療養推進システムの構築を促進する」という初期の目標に対しては、一定の評価に値する成果を得られおり、全国的にも先進性を評価されるに至っている。

今後の課題に対する認識としては、『高齢者の尊厳の保持と自立の支援の下で、可能な限り住み慣れた生活を継続することができるような包括的な支援・サービス提供体制の構築を目指す「地域包括ケアシステム」構築』、『医療の効率化による医療費高騰の抑制及び医療者の就業継続可能性を高める積極的な取組み』が求められており、地域医療の担い手の代表である地域医師会が行政と共に継続して中心的役割を果たしていく必要がある。

特に在宅医療に関しては、これまで以上に地域の診療所（とりわけ在宅療養支援診療所）の機能が地域の資源として、単に診療行為にとどまらず、将来的には地域を支える役割を担う等広い視野に立つことも必要ではないかと考える。このためには、医師の知識、技術、診療実態を踏まえて積極的な介入や発信をしていくことが求められており、当医師会としても、さらにその役割を果たすべく、一層の貢献を果たしたいと考えている。

平成30年度 在宅療養ブロック連携拠点事業実績

| ブロック名 | | 北ブロック | 中央ブロック | 東ブロック | 西南ブロック |
|-------------------------|------|----------------------------------|-----------------------------|---|--------------------|
| 拠点事務局 | | 聖ヨゼフ病院 | 衣笠病院 | よこすか浦賀病院 | 市立市民病院 |
| 委託期間 | | H30. 4. 1～H31. 3. 31 | | | |
| 幹事会 | 日程 | H30.4.19 | H30.5.15 | H30.5.15 | H30.6.12 |
| | 会場 | 生涯学習センター ミーティングルーム | 各拠点病院 | | |
| | 参加者数 | 13人 | 16人 | 11人 | 15人 |
| | 内訳 | 在宅医(幹事) | 4人 | 3人 | 3人 |
| | | 拠点事務局 | 7人 | 11人 | 10人 |
| | | オブザーバー | — | — | — |
| | | 市 | 2人 | 2人 | 2人 |
| 平成30年度 第1回 ブロック会議 | 日程 | H30.6.18 | H30.7.24 | H30.5.15 | H30.7.24 |
| | 時間 | 19:30-21:00 | 19:30-21:00 | 19:30-20:45 | 19:30-20:30 |
| | 会場 | 保健所第1研修室 | 各拠点病院 | | |
| | 参加者数 | 40人 | 73人 | 82人 | 22人 |
| | 内訳 | 診療所 | 9診療所 11人 | 7診療所 12人 | 7診療所 11人 |
| | | 病院 | 4病院 7人 | 2病院5人 | 5病院 7人 |
| | | 拠点事務局 | 10人 | 22人 | 16人 |
| | | 市 | 3人 | 2人 | 2人 |
| | | その他 | 歯科医師1人、 歯科衛生士1人、 訪看7人 | 老健1人、歯科医師3人 歯科衛生士3人 薬局11人、訪看6人 ケアマネジャー19人、 包括3人 | — |
| | 内容 | ①開会挨拶 | ①開会挨拶 | ①開会挨拶 | ①開会挨拶 |
| | | ②診療所医師へのアンケート結果について 概要説明と意見交換 | ②講義 訪問診療医の負担軽減のために | ②講義 在宅でのリハビリテーション | ②西南地区の基本施策 |
| | | ③在宅医師協力ネットワーク構築について | ③活動報告 恵徳会在宅医療クリニック | ③講義 病院でのリハビリテーション | ③後方支援病院登録患者の促進について |
| | | ④閉会挨拶 | ④後方ベッド確保事業について | ④黒船村について | ④病診連携の会の報告 |
| | | | ⑤閉会挨拶 | ⑤質疑応答・意見交換 | ⑤意見交換 |
| | | | | ⑥閉会挨拶 | ⑥閉会挨拶 |
| | | | | | |
| 幹事会 | 日程 | H30.8.22 | H31.2.21 | H30.9.18 | H30.10.16 |
| | 会場 | 保健所第1研修室 | 各拠点病院 | | |
| | 参加者数 | 14人 | 10人 | 9人 | 13人 |
| | 内訳 | 在宅医(幹事) | 3人 | 2人 | 2人 |
| | | 拠点事務局 | 8人 | 6人 | 9人 |
| | | 市 | 3人 | 2人 | 2人 |

| ブロック名 | | 北ブロック | 中央ブロック | 東ブロック | 西南ブロック | |
|-------------------------|------|---|---|--|---|---------|
| 平成30年度 第2回 ブロック会議 | 日程 | H30.10.23 | H30.10.19 | H30.9.18 | H30.11.20 | |
| | 時間 | 19:30-21:00 | 19:30-21:00 | 19:30-20:45 | 19:30-20:30 | |
| | 会場 | 保健所第1研修室 | 各拠点病院 | | | |
| | 参加者数 | 42人 | 55人 | 59人 | 17人 | |
| | 内訳 | 診療所 | 9診療所 9人 | 診療所 10人 | 7診療所 8人 | 6診療所 6人 |
| | | 病院 | 4病院 8人 | 2病院 5人 | 1病院 2人 | — |
| | | 拠点事務局 | 8人 | 11人 | 15人 | 9人 |
| | | 市 | 2人 | 2人 | 2人 | 2人 |
| | | その他 | 訪看6人、包括1人 ケアマネ11人 | 訪看7人 居宅4人、包括1人 ケアマネ12人 福祉用具業者3人 | 歯科医4人、 歯科衛生士1人 訪看4人、包括3人 薬剤師7人、 ケアマネ13人 | — |
| | 内容 | ①開会挨拶 | ①開会挨拶 | ①開会挨拶 | ①在宅医療後方支援 病院の現状報告 | |
| | | ②講義 『在宅療養患者の入院 について考えよう』 入院症例の紹介 | ②講義 安心してお家で暮ら すために多職種の私 たちができること | ②講義 耳鼻咽喉科の在宅医 療 | ②西南地区の基本施 策 | |
| | | ③グループワーク | ③グループワーク | ③講義 VE(嚥下内視鏡)に ついて | ③在宅医を増やすた めの働きかけ | |
| | | ④閉会挨拶 | ④横須賀市より | ④質疑応答・意見交 換 | ④多職種合同研修会 について | |
| | | | ⑤閉会挨拶 | ⑤閉会挨拶 | ⑤次回開催予定 | |
| | | | | | | |
| 多職種合同 研修会 | 日時 | H30.11.27 | H31.1.18 | H30.11.20 | H31.3.1 | |
| | 会場 | 保健所第1研修室 | 生涯学習センター 大学習室 | 横須賀市医師会館 | 横須賀市立市民病院 講堂 | |
| | 内容 | 医師を囲んでみんな で話し合おう | 安心してお家で暮らす ために PartⅡ | 多職種間に係る管理料 | 障がい(高齢)のある方 が地域のつながりの中 で暮らすためには | |
| | 参加者数 | 41人 | 109人 | 47人 | 70人 | |
| 幹事会 | 日程 | H31.1.23 | — | H30.11.20 | H31.2.19 | |
| | 会場 | 保健所第1研修室 | — | 各拠点病院 | | |
| | 参加者数 | 15人 | — | 10人 | 15人 | |
| | 内訳 | 在宅医(幹事) | 4人 | — | 5人 | 3人 |
| | | 拠点事務局 | 9人 | — | 3人 | 11人 |
| | | 市 | 2人 | — | 2人 | 1人 |

| ブロック名 | | 北ブロック | 中央ブロック | 東ブロック | 西南ブロック |
|-------------------------|--------|---|---|---|---|
| 平成30年度 第3回 ブロック会議 | 日程 | H31.3.12 | H31.2.21 | H31.2.19 | H31.3.12 |
| | 時間 | 19:30-21:00 | 19:00-20:45 | 19:15-20:30 | 19:30-21:00 |
| | 会場 | 保健所第1研修室 | 各拠点病院 | | |
| | 参加者数 | 48人 | 55人 | 50人 | 11人 |
| | 内 訳 | 診療所 | 7診療所 9人 | 4診療所 6人 | 6診療所 9人 |
| | | 病院 | 3病院 6人 | 3病院 11人 | 1病院 1人 |
| | | 拠点事務局 | 9人 | 6人 | 12人 |
| | | 市 | 2人 | 2人 | 2人 |
| | | その他 | 訪看3人、 ケアマネ10人、 薬剤師6人、 栄養士1人、 包括3人 | 介護職4人、看護職6人、 ケアマネジャー10人、 福祉用具2人、 薬剤師4人、 医師1人、事務3人 | 歯科医師1人、 歯科衛生士1人、 訪看4人、包括3人、 薬剤師4人、 ケアマネジャー13人 |
| | 内 容 | ①開会挨拶 | ①開会挨拶 | ①開会挨拶 | ①開会挨拶 |
| | | ②講義 30年度 活動内容報告 北ブロック在宅支援 ネットワークについて | ②講義 お薬のお話(在宅で 出会った事例と横須 賀市薬剤師会の取り 組み) | ②講義 外来血液透析患者の 現状 | ②多職種合同研修会 の報告 |
| | | ③閉会挨拶 | ③グループワーク | ③講義 開放型病床について | ③西南地区の基本施 策の報告 |
| | | | ④横須賀市より | ④質疑応答・意見交 換 | ④西南地区在宅療養 ブロック会議の次年 度活動方針 |
| | | | ⑤閉会挨拶 | ⑤閉会挨拶 | ⑤閉会挨拶 |